

よかばい天領

2017/5/11

号外版



興梠博次 新院長よりメッセージ

全職員で大牟田天領病院を最高の病院にしましょう！！

この度、本年4月1日に院長に就任致しました。これまで、熊本大学の呼吸器内科教授として仕事をまいりました。熊本大学附属病院では副院長を2年間努めました。院長は初めての経験です。現在、大牟田天領病院の全体像の把握をしているところです。今後、全職員の皆様の意見をくみ上げながら、優れた点を伸ばし、課題を解決していきます。ご協力をよろしくお願いいたします。

私は、医学部卒業後、5年間は、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、救急・集中治療を担当し、関連病院では外科手術の手伝いも致しました。その後、呼吸器内科を専門とし、1986年から米国のカリフォルニア大学サンフランシスコ校に2年間留学し、帰国後、熊本大学で仕事を継続しました。大学では、診療、研究、教育とともに外来医長、病棟医長、医局長を努め、国内学会、国際学会の実務を担当しました。診療はもとより多面的な領域での企画、実行をまいりましたのでその経験を本院の診療と運営に応用致します。

本院は、明治22年(1889年)に三池炭鉱の創業開始とともに創立され、昭和27年本院が現在地に移転となり、平成14年に三井大牟田病院から社会保険大牟田天領病院となりました。これまで128年間、大牟田・荒尾を含む有明地区の皆様が代々親しまれています。この信頼をさらに強固にして、市民の皆様が大牟田天領病院があるから安心だと信頼をいただける病院づくりを致します。同時に、全職員が大牟田天領病院に勤務することを誇りに思える病院に創り上げていきます。そして、創立130年記念事業を開催して、さらなる次の目標を目指そうと思います。

アメリカ合衆国ケネディ大統領が就任時、「**国が諸君のために何ができるかを問うのではなく、諸君が国のために何ができるかを問うてほしい: ask not what your country can do for you; ask what you can do for your country.**」、と演説しました。私の院長としての考えは、「**大牟田天領病院が職員のために何ができるかを問うのではなく、全職員が大牟田天領病院と患者・家族のために何ができるかを問い、実践してほしい**」ということです。この問いと実践ができた時に、本院の理念である、患者中心の医療、医療の質の向上、地域社会に合った手づくりの医療、安心と信頼を持たれる病院づくり、経営の安定と職員の満足度の向上、に到達できると信じています。

今後も、全職員が自分の責務をプロとして果たせるようお互いに研鑽し、大牟田天領病院を皆様とともに最高の病院に育てたいと思います。まずは、創立130年記念事業を目指して共に頑張っていきましょう！！